

複数のテキストから情報を取り出して活用する力を育む評論の授業の工夫  
～個一協働一個の学習活動による思考の深化を通して～

福島県立安積黎明高等学校 教諭 武藤 文恵

## 1 研究の趣旨

テキストの内容を深く理解するには、テキストから取り出した情報と既有知識や経験、ときには他のテキストの情報とを関連付けて解釈することが必要になる。ところが、生徒はそれが苦手であり、特にその傾向は評論の授業において顕著であった。そこで、このような生徒の傾向を踏まえ、解釈の質を高めるために、教科書教材と他のテキストから情報を取り出し、それらを関連付けて解釈する授業を試みることにした。しかし、これは生徒にとって負荷が大きいことが予想されたため、協働的な学習の機能を生かさないかと考え、以下のような仮説を設定し、本主題に迫った。

評論の指導において、以下の手だてを講じれば、生徒の「複数のテキストから情報を取り出して活用する力」を育むことができるであろう。

【手だて1】 複数テキストの関連付けに必要な視点の明示

【手だて2】 個一協働一個で課題を解決する学習活動の設定

## 2 研究の概要

### (1) 研究の方法

#### ① 検証の方法

事前・事後テストの評価及び事前・事後の意識調査の結果を比較し、生徒の変容を見る。テストは、教科書教材の内容とは関連性のない複数テキストを用いて意見文を書くものとする。

#### ② 単元の概要

教科書教材と他のテキストから取り出した情報とを関連付けて意見文を書く活動を、単元を貫いて位置付ける。

### (2) 手だての内容

#### ① 【手だて1】 複数テキストの関連付けに必要な視点の明示

先行実践等から、複数のテキストから情報を取り出し、それらを関連付けて活用することを目的として読む場合、「文章の大まかな内容をとらえる」「文章の構造をとらえる」「共通点・相違点に着目する」「キーワードに着目する」といった4点に着目する必要があると考えた。そこで、教科書教材と他のテキストとを関連付ける学習活動の際に、この四つの視点を生徒に明示し、運用させることとした。

また、その前段階で行う教科書教材の読解でも、上記の四つの視点のうち二つを意識させる。初読時には、文章の大まかな内容をとらえさせるための発問を工夫し、精読時には、フィッシュボーンを基にして作成したワークシートを用いて文章の構造を可視化してとらえさせる。

#### ② 【手だて2】 個一協働一個で課題を解決する学習活動の設定

他者の考えに触れることで各自の考えを深化させることを目的として、協働的な学習を設定する。まず、個人で課題に取り組ませた後、ペアやグループで話し合いをさせ、その後、再び個人で課題に取り組ませる。

教科書教材の読解では、まず個人で、フィッシュボーンを基に作成したワークシートを使って、文章の構造を可視化させる。次に、その構造図を基に、文章から取り出した情報やその解釈をペアやグループで共有させる。そして、共有したことを踏まえて、個人で構造図を完成させる。

教科書教材と他のテキストから取り出した情報とを関連付けて意見文を書く学習活動では、まず個人で、フィッシュボーンを基に作成したワークシートを使って、意見文の構造図を作らせる。次に、その構造図を基に、根拠や理由についてペアやグループで話し合わせる。そして、話し合いを踏まえて、個人で意見文を書かせる。

## 3 成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

#### ① 複数テキストを関連付ける視点を明示し運用させることの有効性

まずは、授業者自身が、生徒が課題を解決する際に必要となる視点や方略を明確にすること、そして、それを生徒に明示し、課題解決を通して有用性を感じさせることが重要である。

#### ② 個一協働一個で課題を解決する学習活動の有効性

個一協働一個で課題を解決させる授業は、生徒の思考を深化させるだけでなく、主体性を向上させることにも有効であることが分かった。

### (2) 今後の課題

#### ① 複数テキストを関連付ける視点を効果的に運用させる可視化の工夫

複数テキストを関連付ける視点をどのように運用しているか生徒がメタ認知できるように、可視化を工夫する。

#### ② 協働的な学習の効果を高める工夫

グループの人数や分け方・必要感のある課題などについて検討しながら、継続的に場を設定していきたい。